

論文名：性別、年代別にみた閉塞性睡眠時無呼吸と顎顔面形態、BMI との関連（要約）

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 網谷 季莉子

【背景および目的】 Obstructive sleep apnea(OSA)は男性に多い疾患であることから、男性 OSA 患者を対象にした研究はこれまでも数多く報告されているが、一定数みられる女性 OSA 患者についての報告は少ない。また、病因については肥満の他、顎顔面形態とも密接に関与することが明らかにされつつあるが、その詳細については未だ不明な点が多い。本研究の目的は、性別や年代別に顎顔面形態、Body mass index(BMI; kg/m^2)に着目して、OSA の病態を明らかにすることである。

【対象と方法】 対象は、新潟大学医歯学総合病院呼吸器感染症内科の成人患者から無作為に抽出した 112 名〔男性 56 名 平均年齢 54.0 歳 (30.0~76.0 歳)、女性 56 名 平均年齢 56.4 歳 (21.2~75.6 歳)〕とした。資料は、OSA の治療前に撮影した側面セファログラムと Polysomnography (PSG) 検査の結果とした。側面セファログラムのトレース後、頭蓋骨、上下顎骨、上下顎切歯、舌骨、頸椎、咽頭気道、軟口蓋長径、舌断面積について計測した。PSG の検査結果からは、Apnea hypopnea index(AHI; event/h)、BMI、Lowest SpO_2 (%)および CT90(%)を抽出した。続いて、性別および 50 歳をカットオフ値として年代別に 2 群に区分し、合計 4 群について統計学的に比較検討した。

【結果および考察】 4 群の中で AHI の平均が最高値を示したのは男性 50 歳以上群、BMI の平均が最高値であったのは男性 50 歳未満群であった。男性 50 歳未満群と比較し男性 50 歳以上群では舌骨が低位にあり、舌断面積が大きかった。これらのことから、男性では加齢変化による顎顔面形態の変化がリスク要因となる可能性が示された。一方、女性では年代間の形態的相違はわずかであった。各因子の相関についてみると、男性 50 歳未満群、男性 50 歳以上群、女性 50 歳以上群において、舌骨の位置や BMI などが AHI と有意な相関を認めたが、女性 50 歳未満群においては AHI と相関のある計測項目は認められなかった。以上のことから、OSA 患者を性別、年代別に比較検討した結果、各群で病態に関する特徴が異なり、OSA 発症のリスク因子に相違のある可能性が示唆された。